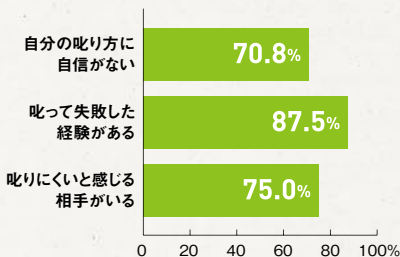


参考DATA

● 企業の上司・先輩へのアンケート



株式会社ミュゼ「職場内コミュニケーション調査」(2010年)

あなたはどっち?

YES

NO

今回のテーマ

“叱らない大人”

最近、職場でも学校でも大人が叱らなくなっているといわれる。高校生をはじめとする若者にとって歓迎すべきことなのだろうか? 「叱られること」の意味を改めて考えてみよう。

叱られることは成長するために必要なこと

先生が生徒を、上司が部下を昔のように叱らなくなっている——そう聞くと、「自分は褒められて伸びるタイプだし、そちらのほうがいい」と思う高校生も多いかもしれない。しかし、「コミュニケーショントレーニング」の専門家、叱り方ハンドブックなどの著書がある齋藤直美さんはこう指摘する。

「人を伸ばすには『褒める』も『叱る』も両方必要。叱られないといふことは、若者にとっては自分が成長できる機会を失っているということになるんです」

では、なぜ大人は叱らなくなったのか? 会社の場合、今の30代・40代自体が叱られ慣れていないことなどが、学校の場合、一部保護者からのクレームへの配慮などが要因として挙げられると齋藤さん。ということはずのまま叱る大人は減っていきそうだが…。

「そもそも、多くの大人が『怒る』と『叱る』を混同しています。感情にまかせて怒るのを自制するのはいいですが、叱ることまでやめるのは大人としての責任放棄です」(齋藤さん)

齋藤さんによれば、「叱る」とは相手を信頼し、相手の成長を促すためにする行為。そして正しい叱り方には以下の4ステップがあるという。①事実を確認する(今日遅刻をしたね)、②事実に対する感情を伝える(君が遅刻したことを残念に思う)、③望ましい行動を示す(時間を守る)、④望ましい行動をとることの相手にとってのメリットを示す(君が周囲から信頼されるようになる)。

叱られる側は、「自分の人格が否定された」と感じてしまいがちだが、とらえ方を変えて、「ここで叱られることは自分にとってどういふ価値があるか」と理解することで、成長につながる可能性がある。ただ、叱られ慣れていないとその切り換えも難しいもの。叱られるシチュエーションを緩和したいなら、自分から進んで大人に意見を求めるといいというのが齋藤さんからのアドバイスだ。

ただし、上手に叱ることができない大人が多くなったのも事実で、「必要以上に傷つけられるかもしれない。だったらやっぱり叱られたくない」と思うのも若者にとっては無理のない心理。さて、皆さんは、叱らない大人が増えたことをどう考える?